

第三十七回 「全日本中学生水の作文コンクール」

# 広島県優秀作文集

平成二十七年 広島県土木建築局

# 目次

## 優秀賞（応募順）

水資源活用の未来を考える  
国泰寺中学校

三年  
窪田 果琳

水の将来  
銀河学院中学校

三年  
井上 雄貴

水を守る  
銀河学院中学校

三年  
岡田 怜恩

## 入選（応募順）

指に触れたものゝ小さな用水路で

二年  
小川 美月

「命の棲みか」  
広島新庄中学校

三年  
上長者 春一

水とのかかわり  
銀河学院中学校

一年  
新谷 衣香

水のありがたさ  
銀河学院中学校

三年  
小林 亮介

水のありがたさを考える  
銀河学院中学校

一年  
行藤 桃果

水について考える  
銀河学院中学校

三年  
藤井 二千夏

「水」  
銀河学院中学校

三年  
新屋 凛

## 水資源活用の未来を考える

国泰寺中学校 三年 窪田 果琳

「風の匂いが違う。」

それが、屋久島に初めて着いた時の私の印象でした。

私は小学生の時、屋久島のエコツアーに参加しました。島をよく見てみると私の知っている瀬戸内海の島とは大分違います。まず海風がとても強いのに磯の香りがあまりしない事、そして次に植物がとても生い茂っていてその間をたぐさんのチョウやトンボ等の昆虫が飛びまわっていました。この美しい自然は絶え間なく降る雨によって育まれています。屋久島のガイドさんの説明で、島では電力をほぼ100%水力発電で賄っているという事を聞き驚きました。日本では火力発電が一番多いと思っていたからです。

私はなぜ屋久島が多く発電量を水力で得られるのか調べてみる事にしました。

まず屋久島の豊富な水資源がどこからやってくるのかという事です。屋久島は水の島とも呼ばれるくらいいつも雨が降っています。私が島に居た間も山々を見上げるとどこかに雲がかかっている、雨が降っているのです。降る量もとても多く、窓ガラスにバケツで水をかけているような量の雨が降っていました。

雨が多い理由は島の中心に標高千九百mの宮之浦岳をはじめ千mを超す山々に島の周りを流れる暖流の黒潮から水蒸気をたっぷり含んだ空気が駆け上がり冷やされることで水蒸気となりそれが雨雲となって雨を降らせるのです。

屋久島の年平均降水量は一万ミリに達すると言われ、これを利用した水力発電で島民の生活を支えているのです。

さらに、屋久島では水力が生んだ自然エネルギーで走行できCO2も排出しない電気自動車の普及に取り組んでいました。

それでは屋久島以外の地域での水力発電はどうなのかというと、既に水力発電ができそうな場所にはダムが設置されており現状ではこれ以上は増やせないようです。

そこで、ダム以外の水力発電として小水力発電が注目されています。農業用水路や砂防ダム等の水量がダムほど多くない場所でも水車を回して発電することができます。

国内では長野県が小水力発電の導入量が一番多く2030年には、太陽光・小水力・バイオマスでの発電を拡大して再生エネルギーでの自給率を100%にする予定なのだそうです。

海外でも小水力発電の開発を進めています。

日本では東日本大震災の福島での原子力発電所の事故以降その対応に追われています。

廃炉する為にた放射性廃棄物は数万年保管しなければならず、未来の地球の生命への負の遺産になってしまいます。

一方、水は清らかに流れているだけで価値があります。その水を利用して環境を大きく変えないで発電する小水力発電は二酸化炭素の排出も無く危険な排出物も出しません。

さらに今、地球で取り組み始めているのが町おこしからの小水力発電です。

かつてはどの農村でも山の上の方まで田んぼがあり小川には水車が回る里山の風景がありました。そういった場所を再び適地として使う事ができます。

単に電気を発電するだけでなく、設置した事で実際に目で見る事のできる環境学習施設として、多くの人々に水資源の大切さを知ってもらい保全への意識を高める事ができます。

人がこれからの未来も水資源を守って行くために森林の保護、川を汚さないライフスタイルに取り組んで行く必要があります。

小水力発電はコストが高くほかの新エネルギーより普及が遅れています。しかし今後、新たな技術開発が進めば普及が進み、人の自然が共生できる世界、低炭素エネルギー社会への未来が実現できると私は希望を持っています。

## 水の将来

銀河学院中学校 三年 井上 雄貴

ある時、新聞を読んでいると、一枚の写真が目がとまりました。

アフリカの少女が、頭の上に顔の三倍はありそうな大きな桶を乗せている姿でした。記事を読んでみると、アフリカの多くの人々は、飲み水が十分でないことを知りました。少女は、学校も行けず、家族のために片道二時間の道のりを、毎日何往復もするのが仕事です。アフリカの約三十か国や、アジアの一部の人々は、十分な水はなく、水を得るために何時間も歩かなければならない生活をしています。十分な水がなくなるかもしれないとも書いてありました。

地球の約七十パーセントは、水で覆われていますが、九十七パーセントは、海水です。つまり、飲み水として使えるのは、地球上の水の三パーセントに過ぎないのです。日々、私達は、料理や入浴、トイレ、植物を育てたり工場でもとても多くの水が使われています。

それに、世界中の人口は増え続けているので、水の使用量も上昇します。ますます、水の必要性は高まる一方です。

家族と食事をしている時に、この事を話すと、父が、  
「日本の企業が、特別なフィルターを使って海水を真水に換える技術を持っているんだ。シャパニーステクノロジーが人々を助ける事に役立っているんだ。」

と、教えてくれました。世界で助けを必要としている人々に、役立つ日本の技術がある事を知りました。私は新聞の記事や父からの話の中で、水の将来はどうしていけばいいのだろうかと考えました。その中で一番強く思った事は、雨水をどう活用していくかという事がカギになると思います。

これは、地球規模の問題なので先進各国で取り組まなければなりません。

降水量の少ない地域に、ダムや浄水場を建設し、石油や天然ガスと同じように雨水を天然資源として貯蔵、運搬し豊富な水を供給できるようにして、苦しむ地域の人々に活用できたらと考えました。

雨水の利用について、身近な所では私の母がバケツなどに雨水を貯めています。夏の時期にはよく水やりを草花にしています。その時雨水をためた水で水やりをするなどで、水を大切に使っています。私から見ると、面倒な作業ですが、母は

「続けてできることをしているのよ。昔、水不足で断水になったことがあって、その時は本当に困っているのよ。生活が全てストップした感じで、何気なく蛇口をひねってみても、水は一滴も出なくて、どれだけ無意識に水を使っていたかがよく分かったのよ。それ以来、無理なく続けられる事をして、自分なりに水を大切にしようと思ったのよ。」

と、話してくれました。

水は、人間にとって決してかかす事のできない資源です。写真の少女が、改めて私にその事を教えてくれました。この思いを忘れずに、水を大切にしていきたいと思います。

優秀賞

## 水を守る

銀河学院中学校 三年 岡田 怜恩

日本は、世界の中でも水に恵まれた国であり、実際のところ水は蛇口から出てくるものという感覚しかありませんが、理科の授業で勉強した水の循環をイメージすると、とても貴重なものだといいことに気づかされます。それは、雲からの雨が地上に落ち、地表、地下を河川や地下水となって海に流れ込み再び蒸発し雲となり、雨になるといふサイクルです。このようなサイクルを冷静に考えてみると、僕たちの日常生活での水利用や環境汚染が水のサイクルに影響を及ぼすことは想像に難しくありません。僕たちはこの自然の水サイクルを崩さないような生活行動を取っていかねばなりません。

では、どのようにしてこの水サイクルの安全を守ってゆくのかわかるとも色々と調べてみてわかったことですが、「全部大切」だということです。全部に注意を払って生活してゆかないと安全な水サイクルは守れません。それ程水とは私たち人間社会そして、地球と切っても切れないつながりがあるのです。その中で自分にできることが二つあります。「汚さないこと」と「大切に使う」ことです。

1つめの「汚さないこと」ですが、これは私たちの日々の生活の中で出る生活排水をできるだけ減らすことです。生活排水には、台所、トイレ、洗濯、風呂などさまざまありますが、特に水を汚す原因とされているのが、台所排水だそうです。排水が、水を汚すだけでなく、食べかすが有機物を増し、水中の酸素欠乏をまねき水中生物さえ生きられない状況を生みだします。

〈汚さないためのできること〉

- 食べかすを直接流さないこと(油も)
- 汚れのひどい物は紙等でぬぐってから洗う
- みそ汁やラーメン汁は無駄のない量で作ること。

これらを家族間で意識して、取り組むことです。

2つめに「大切に使う」ことです。これは私たち1人1人の意識を変えることから始めないといけないと思います。水は無限に存在するものではないのです。あつて当たり前のもではないということに自覚しなくてはなりません。水のことでもよく言われますが、地球の水資源のうち約97%は海水であり、残りの淡水の3%のうち人類が利用できる淡水資源はわずか0.01%です。皆が勝手好き放題に水を使うことで0.01%がゼロになったら・・・トイレは？風呂は？飲み水は？常にそういう危機感が必要だということです。その気持ちさえあれば細かな節水努力も苦ではないはず。

僕の祖父は、神戸高原町という過疎地域で農業のかたわら植林や荒れた山の手入れなどもしています。その手伝いをしている時に祖父が僕に言った、今でも忘れられない言葉があります。

「山を守ることは水を守ることになるんじゃない」

森林は「緑のダム」と呼ばれているように降雨を貯水し、雨の少ない時の水を蓄え、また洪水を防いだり浄化の作用も果たしています。

祖父の言った「水を守る」という気持ち、その気持ちこそが今の僕たちに必要なことではないでしょうか。

## 指に触れたものゝ小さな用水路で

盈進中学校 二年 小川 美月

冷たい水の中を探す指の先に何か触れた。細長くて、ざらざらとした感触。間違いない。今日、見つけた最初の個体だ。私はそれを拾い上げ、大声を出した。興奮して声が裏返ったが、無事遠くの岸でテータをまどめている先生に届いた。

「トンガリササノハガイー」

環境科学研究部というクラブの活動で、タナゴの産卵母貝調査をとある分水口で行っている時の一場面だ。この活動はこのクラブにとつてもう二十年以上続いているとても大切なものだ。卒業した先輩たちや、市民の会の方々も加わり、流域のすみずみまで腰をかがめ、二枚貝を手探りで探し、その種類と生息域をまどめていくのである。

3月の冷たい水の中で行うのには理由がある。一つは、二枚貝やそれも産卵母貝とするタナゴたちなど、水中の生物たちの環境に負荷を与えにくい時期であるからだ。調査のために環境が荒れてしまえば元も子もない。もう一つは、農閑期であるため、福山市の職員の方と連絡しあって用水路を間止めしても支障がないからだ。冷たくてすごく疲れる作業だが、スイゲンゼニタナゴの生息地の再生を確認したい、という一心でみんな貝を探す。

このクラブが二十五年以上保護活動や繁殖分布域調査を続けてきたスイゲンゼニタナゴは、絶滅危惧種に指定されている。また、今は「種の保存法」という法律によって守らなければいけない程、年々機能的に確認数が少なくなっている。もちろん、許可なしでの調査をする事はできなくなってしまった。今回調査を行った用水路でも、もう十五年間生息が確認されていない。かつてはたくさんさんのスイゲンゼニタナゴがいたのだと、先生は遠くを見つめるように言う。その用水路で今回、十六種類の淡水魚を確認した。小さな用水路にしては、多様な種類が生息して

いる。もちろん、これ以外にも沢山の生物が生息している。

この用水路は、もともとスイゲンゼニタナゴが生息するくらいのものであった。しかし、周辺に住む人々の要望から川の形を変え、用水路とした。

「水草にゴミが引っかかって、汚い」

と、いう要望のために様々な生物の環境は大きく姿を変えた。ある地域に住むという事は、その地域の環境と共存する事であって、勝手に変える事では無いと思う。その中には、物言わぬ沢山の命がいるから。第一、川にゴミを捨て、それを捨わないのは私達だ。

そもそも、「きれい」というのは、どのような状態を示すのであろうか。生物がたくさん生息する川は「汚い」のだろうか。何も無い透き通った水で、生物は暮らしていけるのだろうか。

生物は生命を維持するためには、養分が必要だ。私達人間もそうだ。その養分は、ほとんどの生物が自分の口にした物から摂取している。生物の生命維持にとつて欠かせない存在である水は、私達が自分の手で汚した川にある。だから、「生物が生息できないきれいな水」と「多様な種類の生物が生息するきれいな水」とは違う。特に前者は、人間本位の考え方であって、水に生息する生物の事など少しも視野に入れていない。私達が住んでいる所には、沢山の生物も同じように生息している事を忘れていてはいないだろうか。「本当にきれいな水」とは、何であるかをよく考え、理解していく事が、水に生息する生物たちと上手く生きていくために、最も重要なことであると、私は声を大きくして言いたい。

入選

## 「命の棲みか」

広島新庄中学校 三年 上長者 春一

私の暮らす北広島町には、中国地方にまたがる「中国太郎」の別名も持つ一級河川「江の川」が流れています。その雄大な流れはどんな時でもずっと私達を見守り続けています。

その江の川には国の特別天然記念物にも指定されているオオサンショウオの生息が確認されていてオオサンショウオの、生息地域の一つでもあります。江の川といっても本流ではなく、実際に生息しているのは、支流地域です。その支流の一つ北広島町志路原地区を流れる志路川。この川には古くから、生息が確認されていて、その数は1965年の段階では約五百匹ともいわれていました。

しかし、その数も年々減少しています。

理由はいくつか考えられますが、その主なものは、地球温暖化と、水質の汚れです。オオサンショウオは暑さに弱く、水温が二十二度を越えると生きていくのが難しくなります。オオサンショウオは世界最大の両生類として知られているように陸上上がることもできますが、ほとんどは水中で過ごします。そのため水質の変化には敏感です。少しの変化によつて、すぐに影響が出て来ます。これらの現象はオオサンショウオが生まれたとされる三千万年前にはありませんでした。人間によつてオオサンショウオを取り巻く環境は大きく変わってしまったのです。

しかし、ここでオオサンショウオのために立ち上がったのも人間でした。今から五十年ほど前、広島市の安佐動物公園によつて、志路原地区での調査研究が始まりました。そして、1981年に始まった圃場整備事業に伴う河川改修のさい、オオサンショウオの棲みやすい川、環境づくりに地域の人が賛同し、協力したところから始まります。

そして、改修された河川にはオオサンショウオの人工巣穴が設置され、改修が終わった1985年の秋にはオオサンショウオの産卵行動が見

られ十一月にはオオサンショウオの幼生が孵化しました。

こうした流れの中で2004年に地元の人と双葉保育園が中心となってオオサンショウオの保護と自然環境の保護の目的とした「三ちゃんS村」が出来ました。

そして十年以上たった現在も、「三ちゃんS村」の活動によつてオオサンショウオの繁殖が続いています。三千万年前から姿を変えず、オオサンショウオはこの北広島町に生息しています。

そのオオサンショウオの棲みかの川、川の水は子供たちの遊び場でもあります。桜の季節には川辺でお花見をします。夏には、川に入って水遊びもできます。そして、秋から冬にかけては、オオサンショウオの子育ての舞台になります。オオサンショウオはその川、その川を流れる水のおかげで子育てが出来ます。「オオサンショウオのさんちゃんはきれいな水が大好きでオオサンショウオのさんちゃんは僕たちみんなのお友だち」これは双葉保育園で作られた「サンちゃんの歌」の一節です。きれいな水のあることで、たくさんのお植物もオオサンショウオも生きていくことが出来ます。

以前、三ちゃんS村の方にお話を聞いたとき、「約三千万年前から地球上に存在するオオサンショウオが、今尚姿形を変える事なくこの北広島町に身近な存在として生息している事に大きな誇りを感じ、その環境をこれからも守っていかないといけない」と強くかたられていました。この水は、私達だけのものではありません。私達、人間にはこの水をきれいなままで守っていく責任があります。

それは、難しいことではありません。最も簡単にできることは、知ることです。知って何が出来るか自分で考えることです。考えて自分で行動することです。

きれいな水をこれから先に残していくため、もっと沢山のことを知り、行動していきます。

## 水とのかかわり

銀河学院中学校 一年 新谷 衣香

私は、水についてあまり深く考えた事がありませんでした。なぜなら、日本の水道水は直接飲む事ができ、水道水を飲んでも病気になる事もなく、当たり前のように毎日水を飲んでいくからです。

水と言われてもすぐにピンときませんでした。そこでまず、始めに資料を集めてみる事にしました。水について書かれている本が意外と多い事におどろきました。

人間は成人の人で六十パーセントの水分が体内をしめています。四日〜五日、水分を取らないと死に到り、水分を取れば、二〜三週間は生きられると言われている事が分かりました。それほど人間にとって水は必要不可欠であるのだと思い出しました。

水について調べる内に、私は東日本大震災の事を思い出しました。速日テレビで流れる映像、水のこわさ、忘れる事はありません。

水は人間には必要だけれど水害は別で人の命をうばう事があります。一度にライフラインがたたれ、生活が一変します。あたり前のように水道の水を飲んでいたのが使えなくなりません。

私はその時、家に常備していた一リットルのペットボトルを地元の市役所に持って行き、ひ災した人達の所へ送ってもらいました。少しでも役に立てたらとの思いで、家族と相談しました。

「一本の水だけ助かる命があるはず。」と、父が言いました。

もし自分がひ災した時、電気もガスも使えず、食べる事も水を飲む事も出来なくなれば同じように支援してもらおう事になります。そんな時には、どんなに水があつたかと思うでしょうか。水が少しでもあれば命をつないで救助を待つ時間が出来ます。

私は、今、自分にできる事を始めています。トイレの水の節水、おふ

ろのシャワーを出しっぱなしにしない、手を洗う時に水をこまめに止める事です。小さな事ですが、当たり前前の生活に感謝をし、少ない資源を大切にし、守っていく事で私達の将来が変わると思います。

日本は、水が豊かな国です。だからといって水をたくさん使えば使える水がなくなってしまう。

私は、先生から主体変容という言葉をお聞きしました。自分が変わればまわりも変わるという意味です。まずは、自分が節水に取り組む事が大事だと思います。そうしたら、まわりの人達も水を使いすぎないようにしようと思えるはず。一人一人が小さな事でも意識する事で、大きな事につながると思っています。

今回、水について調べてみましたが、水の成分や、水の種類等の内容もありましたが、私はやはり、人間にとって身近な事を書きたかったです。生きるために必要な事が何よりだと思うので、「当たり前前の事に感謝する」ずっと思い続けていきたいです。



## 水のありがたさ

銀河学院中学校 三年 小林 亮介

水は昔からあるが、昔の人達は井戸をほって、地下水を利用していた。また、雨の少ない地域では、いたる所のため池を作って、雨水を貯めて農業などに利用してきた。ぼくの住んでいる地域にも、いくつものため池がある。昔、この地域も、井戸を利用していたらしい。各家に一個、井戸があったらしく、ぼくの祖父の家にも、井戸のあとがある。今は上水道を使用している。井戸は使用していないが、地下水をくみあげるポンプを使って、蛇口から地下水が出てくるようになっていて、曾祖父の話では、子供のころは地下水をくみあげ生活用水として使っていたらしい。また、水がともきれいな地域だったので、ホタルが沢山飛びまわっていたとの事だった。しかし、生活水準があがるにつれて、水質の汚染が進行し、ホタルは全然いなくなってしまうと、少し悲しそうに話してくれたのを覚えている。現在では、地下水を畑の水まきや、畑で採った野菜を洗うのに使用している。近所の家でも夏になると、夕方に庭に水まきをしていて、地下水をくみあげて水まきをしていると話してくれた。ぼくの住んでいる地域では、降水量があまり多くなく、ため池がいたるところに存在する。しかし、地下水は豊富にあるため、夏なのに沢山使用しても枯渇しないほどである。それでも、生活用水として使うことができないのは残念でならない。ではなぜ地下水は、生活用水として利用されることがなくなったのだろうか。その原因の一つとしてあげられるのは、生活排水だろう。生活が便利になった分だけ、人々は水や空気などの自然を汚染するようになってしまった。その結果、地下水は生活用水として利用できなくなり、ホタルの住む環境も破壊されてしまった。それに地下水を使用しすぎると地盤沈下が発生してしまうので、生活用水として、使用することはとても難しい。

川や海についても同じ事がいえると思う。近年では、森林の伐採など

の自然破壊、生活排水や排気ガスなどによる大気汚染といった問題により、水の安全性が心配されるようになってきている。水は自然の大きな力によって循環している大切な資源である。そのため森林、大気、川、土壌のどれか一つでも欠けてしまったら汚染されてしまうのだ。だから忘れてはいけないことが、いくつもあると思う。それは、生物が生きていくうえで、なくてはならないものであることや、農業や工業を支えている、大切な資源であること、その大切な資源は必ず有限であるということである。限りのある資源を守るために、今からできることは何だろうか。当たり前のようにある、安全な水が無くなってしまいう前にできることは何かあるだろうか。洗剤の量を減らしたり、植物を増やしたりといろいろなかうかぶだろうか。その中でも重要なことが、節水を意識した行動をすることだと思う。蛇口をひねれば水が出てくることを当然だと思わずにはなく、自然の恩恵に感謝し無駄を省く生活をしていきたい。

## 水のありがたさを考える

銀河学院中学校 一年 行藤 桃果

みなさん、水は蛇口をひねるとあたり前のように出ると思っていませんか。水は、はじめからきれいだと思っていませんか。しかしこの考えは、間違っています。そんな事は知っていると知っているかも知れませんが、だったらなぜ、簡単にゴミを捨てられるのでしょうか。

私達が、普段使っている水は、全長約八十六キロメートル、流域面積約八百六十平方キロメートルの一級河川、芦田川です。このようならば、美しい川が流れているのに、この川は「汚れている」ことで有名です。

「なぜ、汚れているのか。」  
その答えは、簡単です。私達がゴミを捨てるからです。ゴミは、ゴミ箱に捨てればいいのにも関わらず、わざわざ川やその周りに捨てます。おかしなゴミ、空きカン、ラーメンカップ、中には、水がなければやっていけない農家の人のゴミもあります。このように、川にゴミを捨てることに何の感情もない人がいます。では、水がなくなったらどうなるのでしょうか。

一つ目に考えられる事は、水が飲めなくなるということです。この時点でもうだめですがこの他にも、さまざまなことがあります。料理ができない、みそや日本酒、しょうゆなどもつくれません。主に、水を重要とするうなぎ、わさび、あんこ、アスパラガス、セリ、広島菜、サイダーなど、普段みなさんが食べるものが食べられなくなります。しかも、水は、くさりにくい食材には、水分活性が深く関わっており、チーズやジャム、ハム、ソーセージ、ゼリー、ドライフルーツ、カステラ・ゼリーなど、これも、さまざまな食材にえいきょうが出ます。

このような実態を良くするために、福山市は、次のようなことを目標にしています。

一、ネットをかけよう 二、汚れはふき取ろう 三、油は紙にしみ込ま

せよう 四、洗剤は少しだけ 五、洗剤は適量を

という五つの目標です。川にゴミを捨てない取り組みだけでは、美しい川は、い持できないということがわかります。そして、この五つの目標の持ちようは、「料理」に関することです。料理の際に少し気をつけて意識すれば誰でもできるということです。私は、この他にも、あげ物の油は固めよう！リンスの量は適量！ということもすれば良いと思います。なぜ、リンスは適量にした方が良いのか。それは、私が実際に経験したからです。それは、リンスは固まるということです。以前、それでつまりました。この固まりが水で川に流れてしまうと…。そして、これがたくさん流れると…。なので、リンスは、適量にしたら良いと思います。

私は、美しい川、水をこれからも守っていくには、一人一人の意識が必要だと思います。なので、みんなが水のありがたさ、大切さをもっと深く知ってほしいと思います。そして芦田川を美しい川にしていきたいです。

## 水について考える

銀河学院中学校 三年 藤井 二千夏

これまで、水があつて当たりの生活を送ってきました。日本の浄水技術はとても優れておりいつでも安全な水を供給できます。私たちはそれを何気なく使って生活しています。水がなければ生活していくことはできません。食事をする時、歯を磨く時、手を洗う時、トイレへ行く時、お風呂へ入る時…など、生活のどの場面でも水は必要です。では、みんながみんな水について考え直したり水に感謝したりすることがあるでしょうか。全くないという訳ではありません。しかし、当たりのように目の前にあるので、水がどれだけ大切かということをお忘れがちになってしまうのも多いと思います。

大昔、文明が栄えた場所の近くには必ず大きな川がありました。水が貴重な資源であるのは昔から変わらないのです。水がたくさんある場所が栄え、歴史をつくり、文化や風潮を遺しています。そうして昔から必要不可欠だった水ですが、扱い方を間違えてしまえばとても危険です。川の反乱によって途絶えてしまった歴史も多くあります。水中では呼吸ができません。人の命に関わることになってしまいます。水中では呼吸ができれば、津波になって家が流されてしまったり、その家にいた人が逃げ遅れて亡くなってしまったりなど、水は怖い面も合わせ持っています。

時代が進むにつれて、私たちの水の扱い方は上手くなっています。勿論自然の摂理によって起きてしまう災害は仕方ないかもしれませんが、でも以前と比べてエコのような取り組みも増え、水を大切にしようとする習慣が根づいてきました。洗濯はお風呂の残り湯を使うようにしたり、水の出しっぱなしをやめるようにしたりして、水を無駄使いたないようにとたくさんの方の配慮がなされてきていると思います。

私は、今まで水に苦労したことは一度もありません。蛇口をひねればきれいな水が出てくるし、それが止まることも出なくなることもありません。

せんでした。しかし、世界を見てみれば、水の供給が不安定で毎日きれいな水を使うことができない地域がたくさんありました。一日を何事もなく過ごせることがとても幸せであることを痛感しました。水が使えることをごく普通に考えていた自分を恥ずかしく思いました。

限られた資源を使う中で、私たちが使える水というものはとても少なく、貴重です。浄化する技術が優れていても、それを浄化するのに資源をまた使ってしまうのです。環境問題である水質汚濁の一番の原因は、私たちが出す生活排水だそうなんです。私たちが垂れ流しにしているせいで川や海が汚され、ただでさえ少ない水がもっと減らされてしまいます。その結果、水が足りなくなるということになってしまいます。

私はもう少し水について考え直そうと思いました。小さなところから無駄に使わないよう心がけ、水が使えることに感謝していきたいです。

## 「水」

銀河学院中学校 三年 新屋 凜

小さい頃から「水は大切だ。」とよく言われました。その時は、どうして水が大切なのか分かりませんでした。水は海や川にたくさんあるからそれを循環して使っていけばいいと思っていました。しかしそれは大きな間違いでした。

私が調べたところ、地球の水のほとんどは海水で、利用できる河川などの淡水は1%にも満たないそうです。これを知った時は大変驚きました。生活や農業で使う水をこの限られた水で使っています。蛇口をひねればあたり前に出てくる水はこんなに大切なものだとは思いませんでした。

もし水がなくなったら、どうなるのでしょうか。水がなくなると家庭では、給水時間が制限されたり、水道水を送り出す圧力が減らされ水の出が悪くなるそうです。制限されると、食事や入浴、トイレがとても大変になります。時間が制限されたり、水を使いたい時に使えなかったりします。

私の母もこういった場面に遭遇したことがあるそうです。その時は、雨があまり降らなくて、水が少なくなり九時以降は水が使えなくなったそうです。母は、バケツに水を貯めて、その貯めた分で食事や入浴、トイレをすませていたそうです。水を使えなくなった時はすごく不便で、大変だったそうです。

水が少なくなっていくと、プールの使用も中止されます。平成六年に起きた濁水の場合は、市立小中学校、保育園のプールが使用中止になったそうです。市民プールも使えなくなったそうです。夏の楽しみであるプールが中止になると、私たち、子どもにとってはすごく最悪なことだと思います。

水は太陽の熱を受けて海などから蒸発し、雨や雪になって地上に降り、

地下水になったりして海に戻っています。しかし近年は、雨があまり降っていないくて「水不足」になっています。水の使い方など考え方など見直すことが必要だと思えます。

水が使えなくなったりする場合は、節水はすごく大事だと私は思いました。でも節水はどんなことをしたらいいのでしょうか。

節水は、キッチンや洗濯、洗面所などたくさんある場面ですることができま。例えば、キッチンでは、お皿を一つずつ蛇口の水で洗うのではなく、ためた水で洗うのがいいと思います。洗濯では、「注水すすぎ」から「ためすすぎ」にして洗ったり、お風呂で使った残りの水などで洗ったり、洗面所では、コップやバケツなどに水をためて、はみがきの時や顔を洗う時に使ったり、お風呂場では、残りの水をすぐ捨てるのではなく、洗濯や洗車、掃除の時に使ったりできます。このようにたくさん工夫をすれば、節水はできます。

私もこれから水を大切にして、節水をしていきたいです。